

2012年4月23日／福岡市博多区・博多教会

九州地区講演会／日本福音主義神学会西部部会（要約版）

現代日本と福音の伝道

櫻井 圀 郎

I 日本文化と福音伝道

一 「文化」とは？

1 字 義

2 定 義

(1) 一般的

(2) 社会的

(3) 人文的

3 聖 書

(1) 人間の創造

(2) 人間の使命

(3) エデンの園

二 「日本文化」とは？

1 日本の文化

(1) 日本人

(2) 日本社会

(3) 日本神話

- 2 日本人基督者の誤解
 - (1) 欧米宣教師の視座？
 - (2) 文化・民俗と宗教との混同
 - (3) 欧米文化の基準
- 3 「外国の宗教」としての基督教

三 「現代文化」の視座

- 1 伝道対象は現代人
- 2 無宗教的・進化論的
- 3 現代日本人

四 「福音」とは？

- 1 大前提としての創造
 - (1) 神の世界創造（存在の創始）
 - (2) 神の人間創造と人間との契約
 - (3) 神の代官としての被造物の統治
- 2 福音の前提としての罪（原罪）
 - (1) 悪魔の誘惑による、人間の契約違反（原罪）
 - (2) 悪魔の奴隷としての人間の悲惨（罪人）
 - (3) 原罪による第一の死・第二の死（地獄）
- 3 基督による贖罪の提供（福音）
 - (1) 神の恵みによる人間の救済（福音）
 - (2) 基督による贖罪と契約の回復（福音）
 - (3) 基督の贖罪による永遠の生命と基督者の至福（福音）

五 「伝道」とは？

- 1 「福音」を伝えること
 - (1) 原則は、一対一の個人伝道
 - (2) 前伝道行為

- 2 改宗を求めること
 - (1) 旧約と新約のメッセージ
 - (2) 理解させること
 - (3) 改宗決断を促すこと
- 3 「外国の宗教」伝道論
 - (1) 伝えるのは「外国の宗教」ではない
 - (2) 「外国の宗教」とすることも一つの選択

II 文化と伝道の再検討

一 $+ \alpha$ (プラスアルファ) 伝道論

- 1 日本伝道の3画期
 - (1) 戦国時代
 - (2) 明治維新时期
 - (3) 第二次大戦後
- 2 急成長+急下落
 - (1) 事象 短期間に信者数が急激に増大、一定期間後に急速に減少
 - (2) 原因 信仰以外のもの ($+ \alpha$) を原因とする信仰
 - (3) $+ \alpha$ は
- 3 $+ \alpha$ 伝道の問題点

二 ホワイトタブレット論 (WT 論)

- 1 米国宣教論の基本?
 - (1) WT 論
 - (2) かつての葡国・西国
 - (3) ホワイトタブレット論展開の要件
- 2 日本人伝道者の意識
 - (1) 牧師の吐露
 - (2) WT 論に影響された誤解

- 3 WT 論の誤り
 - (1) WT 論展開の要件は強国
 - (2) 伝道の可能性は異教
 - (3) WT なら伝道不可能

三 「異 教」

- 1 「異教」とは？
- 2 異教の原因
 - (1) 宗教進化論
 - (2) 宗教多元論
- 3 偽造としての異教
 - (1) 「宗教」創出の可否
 - (2) 模倣としての異教の神々
 - (3) 宗教一元論
- 4 「神でない神」の出現
 - (1) 神と人間
 - (2) 悪魔の誘惑（欺罔・騙し）
 - (3) 罪（原罪）
 - (4) 「無神論（否神論）」の発生
 - (5) 神となった人間
- 5 神のかたちの残滓と異教
 - (1) 神のかたちの創造
 - (2) 神のかたちの喪失
 - (3) 神のかたちの残滓
 - (4) 歪んだ神的感覚
 - (5) 異教は神的感覚の発露

四 「偶 像」

- 1 意 味
- 2 「偶像礼拝」と「偶像礼拝」

3 新約聖書の展開

五 無宗教

1 無神論≠無宗教

- (1) 無神論は自己神論
- (2) 自己神論は有神論
- (3) 無宗教は自己神論の展開

2 無宗教の論理

- (1) 進化論
- (2) 偶然の世界観
- (3) ビッグバン論

3 無宗教の無秩序

- (1) 現在日本の現象
- (2) 伝道の対象

Ⅲ 現代日本社会の伝道

一 「タテマエとしての伝道」から「ホンネの伝道」へ

1 「タテマエとしての伝道」

- (1) 「タテマエ」とは？
- (2) 日本人の行動様式
- (3) 「タテマエの伝道」論

2 「ホンネの伝道」

- (1) ホンネで考えた伝道
- (2) 無理のない伝道
- (3) 言葉によらない伝道

二 「否定の伝道」から「肯定の伝道」へ

1 「否定の伝道」

- (1) 伝道の姿勢

- (2) WT 論に依拠
 - (3) 伝道の実際
 - 2 「肯定の伝道」
 - (1) 「肯定」とは？
 - (2) 伝道の姿勢
 - (3) 「肯定」の前の調査・研究
 - 3 「肯定」に基づいた「伝道」
 - (1) 日本文化の意味の発見
 - (2) 日本文化の意味に乗じた福音の展開
 - (3) 事 例
- 三 「外国の宗教」から「同胞の宗教」に
- 1 「外国の宗教」とは？
 - (1) 「外国起源の宗教」という意味ではない
 - (2) 「外国の宗教」として展開している宗教
 - (3) 基督教と仏教
 - 2 「外国の宗教」という選択も
 - (1) 「外国の宗教」の全面否定ではない
 - (2) 「外国の宗教」としての意識的展開
 - (3) 「外国の宗教」展開の注意点
 - 3 「同胞の宗教」としての展開
 - (1) 「同胞の宗教」の意識
 - (2) 日本文化を基礎にした用語
 - (3) 「日本の宗教」としての自信

< 櫻井圀郎・日本宣教論関係文献 >

櫻井圀郎「現代に生きる日本人キリスト者のための使徒信条」

『成長』73～84号（CS成長センター、1996年～1998年）

櫻井圀郎「時代劇とキリスト教」『百万人の福音』1997年10月号～1998年9月号

櫻井圀郎『日本宣教とキリスト教の用語』（いのちのことば社、1997年）

櫻井圀郎「キリスト教比較文明論の可能性」

『キリストと世界』8号（東京基督教大学、1998年）

フレーム（櫻井圀郎訳）『キリスト教弁証学入門』（長老教会出版、1998年）

櫻井圀郎

「『神』再考～日本という場における宣教と弁証の新たな展開を目指して～」

『キリストと世界』9号（東京基督教大学、1999年）

櫻井圀郎『「ビジネスとキリスト教」を考える』（JCB Network、1999年）

櫻井圀郎ほか『神と世界と日本と』（共立基督教研究所、2000年）

櫻井圀郎ほか『日本宣教と天皇制』（いのちのことば社、2001年）

櫻井圀郎「『偶像にささげた肉』とパウロの信仰実践論」

『R.A.C ジャーナル』10号（文脈化研究会、2001年）

櫻井圀郎「信仰の神学」『世界宣教の現状と展望』（東京キリスト教学園、2002年）

櫻井圀郎『異教世界のキリスト教』（いのちのことば社、2002年）

櫻井圀郎「『日本の教会』の昨日・今日・明日」

『宣教学リーディングス』（RAC ネットワークほか、2002年）

櫻井圀郎「日本人の宗教観と祖先崇拜の構造」

『キリストと世界』13号（東京基督教大学、2003年）

櫻井圀郎「神への礼拝と死者の慰霊」

『キリストと世界』14号（東京基督教大学、2004年）

櫻井圀郎『「異教としてのキリスト教」からの脱却』（リバイバル新聞社、2004年）

櫻井圀郎「聖書における偶像」『幸いな人』2005年1月号

櫻井圀郎「教会とアイドル現象」『幸いな人』2005年1月号

櫻井圀郎「教会に求められる真の権威の回復」

- 『牧会ジャーナル』32号（牧会ジャーナル編集委員会、2006年）
- 櫻井罔郎「贖罪論の誤適用」『聖書カウンセリング研究』創刊号
（聖書カウンセリング研究会、2007年）
- 櫻井罔郎「『否定の伝道』から『肯定の伝道』へ：基督教一元主義の多角的展開」
『福音主義神学』40号（日本福音主義神学会、2009年）
- 櫻井罔郎『神論緒論』（東京基督教大学、2010年）
- 櫻井罔郎『人間論講義』（東京基督教大学、2010年）
- 櫻井罔郎『神論講義』（東京基督教大学、2011年）
- 櫻井罔郎「異教としてのキリスト教からの脱却」『ハーザー』2012年2月号